

教材教具の工夫

小学部4年 自立活動 「学習用具の使い方の定着を目指した工夫」

見えにくさや手指の動きにぎこちなさがあるため細かい作業が苦手な児童が、好きな制作活動を通して、学習用具の効率的な使い方を試行錯誤し、手指の巧緻性の向上とともに、各教科等の授業や日常生活における学習用具の使い方の定着と活用につなげるように工夫した。

1 題材の工夫

市販の絵本を参考にしながら、オリジナル版の「しかくみつけた」「まるみつけた」「さんかくみつけた」の3冊の絵本を作ることにした。絵本が完成したら、低学年児童たちの前で読み聞かせすることにして、意欲を引き出した。

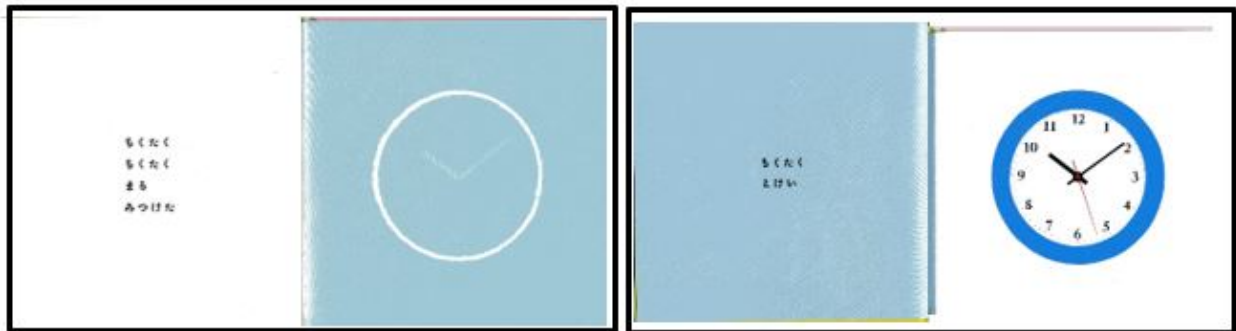


写真1 絵本「まる みつけた」

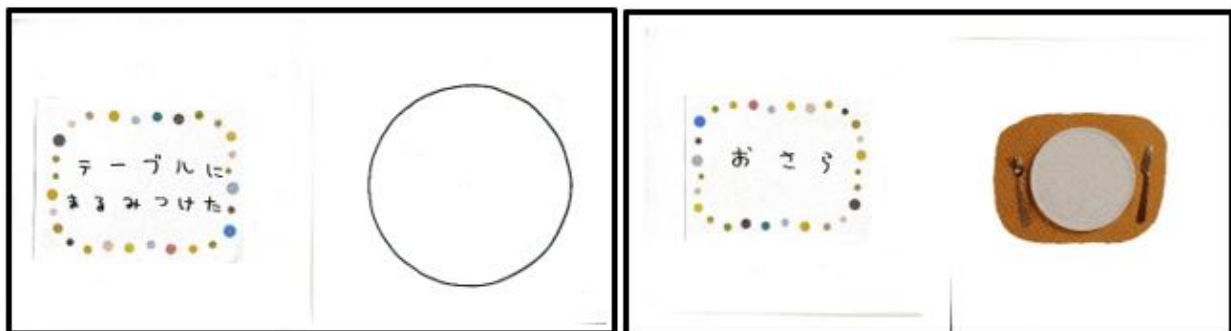


写真2 本児が制作したオリジナル絵本「カフェの中の まる みつけた」

2 しかくみつけた（定規の使い方の練習）

意欲を持続させながら学習用具の使い方を練習するために、定規で直線を引くことで、イラストが完成する課題（写真3）を用意し、縦、横の直線の引き方を練習した。ここでは、定規の押さえ方や力加減が分かって取り組むことができるように、線の太さの見本を示したことで、同様の線を引くことができた。さらに、横の線が引きやすいことに気付き、紙を動かしながら自分がやりやすい方法で定規を使う姿を見ることができた。イラストを変えながら毎時間行うことで、定規の使い方の定着や絵本づくりにつながった。



写真3 課題プリント

3 まるみつけた（コンパスの使い方の練習）

コンパスで描いた円を切り貼りしてイラストを完成させる課題（写真4）を設定したことで、意欲的にコンパスの使い方を練習する姿を見ることができた。円の大きさやイラストを変えながら継続して課題に取り組むことで、コンパスの使い方が定着してきた。



写真4 課題プリント

4 さんかくみつけた（はさみの練習）

指を大きく開いてまっすぐ切る感覚をつかむために、3cm、4cm、5cmと幅の異なる短冊（写真5）を1回または2回で切る練習場面を設定したことで、絵本で使う三角形を切るときに、はさみを大きく開いてゆっくり切る様子が見られた。5cm幅の短冊には、真ん中に印を付け、2回で切るように工夫してはさみを閉じきらずに切り進める感覚をつかむための練習になったことで、絵本で使う三角形を切る際、手指を大きく動かしながら、はさみを閉じきらずに切る姿を見ることができた。



写真5 練習で使用した短冊

線から大き
くはみ出し
ている。

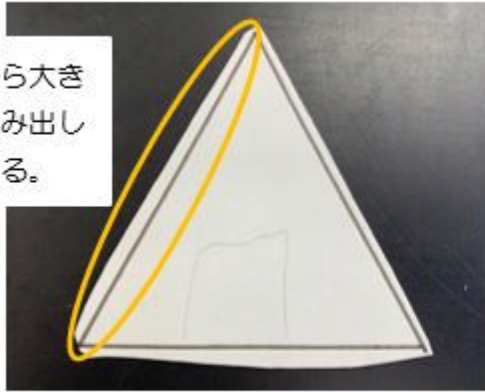


写真6 練習前に切った三角形

ほぼ線のと
おりに
切っている



写真7 練習後に切った三角形